対詠　ごきげんいかが？

Ｏ　小野澤繁雄
Ｎ　布宮　慈子
Ｋ　河村　郁子

卒寿とてうからやからら十人が揃ひてくるる我が家の賀なり　3月26日　Ｋ

卒寿とふ河村さんに驚きて初に会ひたるころ思ひ出づ　3月27日　Ｎ

男の子となりにいつか眠り込むワンマン一両そのなかのこと　3月31日　Ｏ

義兄(あに)上の九十九歳八ヵ月年功積みきて閉づるは刹那　3月31日　Ｋ

年度末過ぎて迎ふる春の日に白梅かをる今日は清明　4月4日　Ｎ

どこの桜ということもなく若木二、三いつもことしも少し遅れて　4月9日　Ｏ

遅れ咲く山桜花この年は若葉ともなひ守られるごと　4月14日　Ｋ

満開を過ぎて桜の花びらがお濠の水を覆ふ公園　4月17日　Ｎ

桜終りをみる人はなく上沼にみるは流れか音もしている　4月20日　Ｏ

わが愛づる山桜この年は葉の間に花咲き花ふぶきなし　4月22日　Ｋ

山桜ことしも見つつ走りたりふはり咲きたる山越えの道　4月24日　Ｎ

対詠　ごきげんいかが？

Ｏ　小野澤繁雄
Ｎ　布宮　慈子
Ｋ　河村　郁子

色づきて落ちる紅葉（もみぢば）あざやかに歩道にありて冬の入り口　12月6日　Ｎ
咳をして若い人ともしれるやと自転車の人追い抜き際（ぎわ）に　12月10日　Ｏ
歯科女医が帯状疱疹顔に出てひつそりとペインクリニックへ　12月20日　Ｋ
この国にワクチン神話の根強くて理解されざるワクチン後遺症　12月24日　Ｎ
臭覚がなくなってから幾日間これもひとつの引き算の世界　12月27日　Ｏ

２０２４年

つぎつぎと新型ウイルス出現し人類史上のマイルストーン　1月9日　Ｋ
七尾市の知り合ひの無事告ぐるときメーリングリストは体温をもつ　1月12日　Ｎ
ご夫君を先になくしたそのことが市川さんをしのんでひとつ　1月16日　Ｏ
年賀状の数の減りしをうべなふも老いの暮らしのさまざまを知る　1月30日　Ｋ
年賀状これが最後と告ぐるとき身体わづかに軽くなりたり　2月3日　Ｎ
パラパラと下二桁を確かめて今年もひとつ切手シートは　2月7日　Ｏ
年賀状に今年で終はるの付記増えて老後の孤独楽しむらしも　2月16日　Ｋ
不登校の孫もつ人と共に観る「夢みる校長先生」たのし　2月22日　Ｎ
よりそわれそうもかたちで老夫婦山の万座にきている幾組　2月27日　Ｏ
近隣にワンルームマンション三棟建つ若者たちの結婚離れ　2月29日　Ｋ
ひな祭り雪国なれば谷地にてはひと月遅れに雛飾りする　3月3日　Ｎ
訪れてしる名のひとつ花巻に花巻人形人にかぎらぬ　3月6日　Ｏ
雛の日に手巻き雛すし食（たう）べたり救急車の中義兄（あに）の付添ひ　3月16日　Ｋ
ひな市は月遅れなり間もなくといへど山形は雪化粧の朝　3月21日　Ｎ
何か輪はミーティングしているや朝日曜はおじさんらソフトボールに　3月25日　Ｏ

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

7月26日　O
南さんが云う入道雲入道がそらいっぱいになる昨日うれしさ
連日の夏青空には体温を超ゆる暑さよ　冷房必需

7月30日　K
切り替へて夜の散歩に出てみれば東に大きまんまるの月
認知機能検査受検の日の朝も歩いて今日は八月四日

8月2日　N
極暑日のタクシー待ちは荒修行　むなしく悔やむ免許返上
運転歴十年を超えなほわれは左折の多き道を選びつ

8月7日　O
バス停にのり置いてある自転車ら最寄り駅なしバスにのるまち
愛車にて10分足らずの道のりをとぼとぼ歩く交通難民

8月13日　K
目的は畑に行くこと軽トラに乗る叔母いまだ免許を持ちて
車にきて歩いてまた車に帰るウォーキングセンター人ら帰りか

8月19日　N
猛暑日の日ざかり杖つき菩提寺へ免許返上悔みつつ歩む
半日を運転すれば「返上」とふ言葉は重くおもく響きぬ

8月26日　O
この頃は史劇をみないそのドラマ韓国にしる右側通行
タクシーを待つ間に今なほつのりくる免許返上早まりたりと

8月28日　K
そのむかし仕事帰りに駅までを赤い車に乗せてもらひき
通勤につかいしみちにもどるよう町内いくつ歩き通して

9月10日　N
心決め二足歩行に専念す　菩提寺往復五千歩なりぬ
久びさに勢至堂への道ゆけば前の荒物屋なくなつてをり

9月15日　O
どうかして線路に草はかまわれぬ残っているや幹線ででも
わが犬と散歩の途に愛でゐしも露草月見草この年も見ず

9月20日　K
わが車に冬タイヤを履かせればいよよ来るなり雪の予報が
合併で少なくなりしと説明は道路元標これともひとつ

10月5日　N
散歩みちに散り敷く枯れ葉は花水木わびつつ踏みて音を楽しむ

対詠　ごきげんいかが？

Ｏ　小野澤繁雄
Ｎ　布宮　慈子
Ｋ　河村　郁子

山形の桜未だし観てきたり同級生の油絵「桜花」　3月27日　Ｎ

これが咲くと咲いた感じがするよねと園の桜は育ちしさくら　3月29日　Ｏ

山形の真ん中の桜満開にて西公園は七分咲きなり　4月6日　Ｎ

その週は心うごかしソメイヨシノ今は大島、枝垂れをしみる　4月10日　Ｏ

いちだんと鳥の囀り高くなり枝垂れ桜は葉桜となる　4月17日　Ｎ

何ごとかもつれているやききなれて鶯のこえ四月の山に　4月22日　Ｏ

何ごともなき一日なり速報のメール「大谷６号２ラン」　4月27日　Ｎ

日曜朝は女子のソフトの練習かベースあたりの草抜いている　5月2日　Ｏ

数人の小父さん小母さん手芸店にグラウンド・ゴルフに使ふ布を選る　5月11日　Ｎ

自転車の練習をしているは父子そばでまもるはその祖父ならん　5月18日　Ｏ

子ども用ピンクの自転車ふえたるは最近越して来し人のもの　5月28日　Ｎ

グランドゴルフはチームプレーじゃないからと内田さん話人気の訳に　6月2日　Ｏ

ジュワジュワと集団のこゑ響きゐて梅雨空は暮る椋鳥ならむ　6月13日　Ｎ

梅雨に入り小学生の傘の色　黄色に混じる桃色うれし　6月13日　Ｋ

実をみぬはオス木だからか山桃ののけぞりながら公園木は　6月18日　Ｏ

実るなく香るとてなきあぢさゐの瑠璃の花たま雨にかがよふ　6月21日　Ｋ

何十年ぶりに作りし「なた巻き」を毎日食べて昔語りす　6月27日　Ｎ

のびすぎか木立仕立てかアベリアに花生臭きにおいもぞする　6月30日　Ｏ

菩提樹のあまた青き実香るなく花の華やぎ籠りて揺るる　7月2日　Ｋ

菩提樹はインドにつながり思ひ出す優しく弱き裕之くんを　7月7日　Ｎ

「みんなの願いがかないますように」短冊はこれも七夕願いのひとつ　7月14日　Ｏ

空梅雨の笹の葉かさかさ揺るるのみ「祈　平和」の墨書短冊　7月17日　Ｋ

梅雨明けと見らるるといふ発表に久しぶりなる青空を吸ふ　7月22日　Ｎ

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

珍しく秋が長いと話しつつ来年の手帳を買ひ求めたり　11月30日　N

菩提寺の庭は練馬の保護樹林　桜、銀杏に楓の紅葉　11月30日　K

オルソンの家とわが呼ぶ排水機場川べりにして川より高く　12月3日　O

冬枯れの川辺を行けば来春の桜並木の明るさは見ゆ　12月9日　N

すつきりと葉を落としたる桜の枝（え）にはや花芽あり春遠からじ　12月15日　K

枯葉ばかりになりたるさくら十月桜花の気配は春につづいて　12月21日　O

どか雪のあとの晴れ間のうれしさや清々として散歩に出でむ　12月27日　N

黄葉の桜落ち葉が軒下に吹き寄せられる乾燥の季（とき）　12月31日　K

2023年

霜柱のこわれたみちがまたこわれ水のしめりは黒土の上　1月5日　O

積もりたる雪がとけては流れゆくこの循環の冬は正直　1月12日　N

二十三日ぶりの降雨に庭木みな生気あふれて梅に一輪　1月22日　K

花のある畑畑のある庭庭のなき家に育ちし子どもらおもう　2月8日　O

立春を過ぎしといへど雪の降る羽州は未だ春には遠し　2月15日　N

雨水その意味がクイズになっていた雪の残りの幾日間へて　2月20日　O

田の上を白鳥三羽飛び行けば春へ春へと近づく羽州　2月24日　N

白梅のある家紅梅のある家ともにある家咲いてしれるや　2月27日　O

啓蟄に梅の蕾の見えてきて春めく出羽の雪は消えゆく　3月6日　N

幟なる通学路またこども一一〇番の家いずれ春色　3月10日　O

梅咲いて梅見のころとなるはずの羽州まさかの週末の雪　3月18日　N

弓取式そのマネが上手かったのはだれ中学時代のだれかれおもう　3月21日　O

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

おそらくは梅雨明けしたとふ山形の赤紫のあぢさゐの色　6月30日　N

梅雨明け後の猛暑に耐へし紫陽花が豪雨も慈雨とうなづくごとし　7月18日　K

大雨のあとは決まって川にくる村の大人もしていたことに　7月21日　O

寒河江（さがえ）川の水かさ多し上流の月山ダムが放流してゐて　7月30日　N

庭の木をうるほすほどに雨降らず猛暑の夕は散水すなり　8月2日　K

ヒロインの名も勝手によみつつ下巻にきてつと確かめぬ逢衣をあいとし　8月6日　O

岩木川の濁れる流れに「北苑」の歌の友らよ避難されしや　8月10日　K

町内の違いのようなことひとつ下松にきてしきり蝉声　8月16日　O

蟬声のしきりなるを聞くときに記憶は語る夏の終はりと　8月29日　N

久しぶりにミンミン蝉の声を聞く菩提寺の奥の院にひとり　9月2日　K

翼あるカイトのようは案山子なり日ざし透かして大きくも揺る　9月6日　O

パッキリと晴れたる空を縦横に汚してゆけりケムトレイルの雲　9月15日　N

秋空に入道雲の白まぶし遠く台風侍らす奇なり　9月15日　K

野分待つ秋の一日朝から降りみ降らずみ落ちつかなさに　9月19日　O

秋彼岸過ぎて散歩に出でしとき金木犀かをる羽州山形　10月1日　N

木犀（もくせい）と書きて犀の字見つめゐるその角「魔除け」と母は言ひにき　10月6日　K

木が多く伐採されてそれも過去見通し、見晴らし今の価値なる　10月13日　O

紅葉を夕日が照らす瀧山（りゅうざん）は蔵王山の前にある山　10月18日　N

柿の葉を秋の夕つ陽照らしゐるその実存のはなやぎはかな　10月22日　K

ウクライナかかし祭りに出されたは〈神様お願い〉少女の案山子　10月29日　O

瀧山（りゅうざん）は初冠雪して山形に冬支度のこゑ聞こゆるごとし　11月4日　N

雪の舞ふウクライナの爆撃痕「ぽかぽかカイロ」すぐ届けたい　11月22日　K

蛙手のいろいろあるが落ちているカエデ見本園二十種ばかり　11月25日　O

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

苗木より育てし紅梅この年も立春たがへず一輪開く　2月17日　K

この日みた花白梅は白いろといいきれぬいろを見上げて　2月21日　O

春が来る魚と聞きてスーパーに庄内浜の茶メバルを買ふ　2月24日　N

寒風に苛まれつつバス待つに河津桜の咲き初むる知る　2月28日　K

さし渡す枝のみなるは梨の畑（はた）ここに初音はうぐいすのもの　3月7日　O

春が来て小鳥のさへづり聞こえればいかにも悲し人の戦ひ　3月24日　N

公園の桜が一分咲くを見て戦に果てし若人思ふ　3月25日　K

さくらばなそのあしもとに同じくに葉に先んじて花は連翹　4月1日　O

お花見の噂を関東より聞きて一週間の後に羽州の連翹　4月7日　N

咲き盛る桜に雨のそぼ降りて戦（いくさ）の報せのこもごも憂ふ　4月23日　K

米沢に下って走る数年をここにくらししあれこれを聞く　4月26日　O

メーデーといふ日があれば誘はれて集会に行きき子の手を引いて　5月1日　N

七〇年前高校生の時なりきマルキシズムにあくがれゐたり　5月4日　K

草のびて残りしところなおみちで春のみちゆく青年腕振る　5月9日　O

友人の蕨畑に入りてより夢中になりぬ蕨つんつん　5月16日　N

庭師来て松の穂刈りつつこの年は草木の繁り盛んと言へり　5月17日　K

庭の人と鉢のアジサイかぐや姫の話しそれから多くに及ぶ　5月21日　O

山形の辻に祀らるる霊石の隣の紫陽花つぼみは固し　6月1日　N

テレビには登山電車に触るるごと紫陽花今を盛りと咲きゐる　6月5日　K

板東十一番ここの三重塔の関係に今はテレビにみる源範頼　6月8日　O

テレビには頼らぬ日々を送りきて十年が過ぐ今の安らぎ　6月16日　N

武蔵野三十三所の観音巡礼思ひ立つなり菩提寺がその一番なれば　6月21日　K

鎌倉の寺の感じはアジサイのいくつかながら比企郡宗悟寺　6月25日　O

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

一つ屋(や)に囲われていて立派さは中松地蔵中松本町のもの　9月18日　O

上町(うはまち)の勢至(せいし)菩薩は山形十三仏霊場の第九番札所なり　9月28日　N

菩提寺は武蔵野三十三観音(くわんおん)霊場の一番なれどもはや巡れぬ　10月10日　K

庭先に爪切る音のひびきおり坂東十一番かたわらの家　10月14日　O

阿蘇山が噴火したらし山形は寒くなり今日ストーブ点けた　10月20日　N

季(とき)ごとに愛でし桜に紅葉(もみぢ)なく立冬迎ふ　枯れ葉を拾ふ　11月4日　K

生垣に伐りくれし実の二つほど郁子(むべ)なるものをしばらく飾る　11月8日　O

月山が白い帽子をかぶつたよ紅葉する山のもつと向かうに　11月15日　N

庭うちの千両の実のたわわなり朝な夕なに朱色の声かけ　11月25日　K

歩く人の出番のような時間ありここに先生と呼ばれる人　11月29日　O

雪降りのきのうの天気うそのやう晴天のなか弾んで歩く　12月14日　N

老いたれど三着ならべて着衣決むスマホに今日の気温を訊きて　12月17日　K

単車でくるサンタさんともみていたにピザではなくてヤクルトの人　12月24日　O

２０２２年

夜遅き時間なれどもピザ屋さん雪の轍(わだち)をヨロヨロと行く　1月4日　N

積雪の10センチほどに幽閉され七草がゆをとくと賞味す　1月9日　K

辻立ちのお地蔵さんのその小柄小菊が揺れてあしもとのもの　1月13日　O

雪の日に部屋を明るく照らすごと橙色に咲くカランコエ　1月18日　N

正月の生花に添へたる千両の朱の実をほぐし餌皿にのせる　1月24日　K

飾りは眼のためのもの川橋のたもとを飾る樟(くすのき)ひとつ　1月28日　O

オミクロンは風邪と言ひ切る医師のゐて南天の実に雪は降りしく　2月3日　N

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

野のみどり山のみどりの変はりゆくさまを映して五月はすすむ　5月12日　N

わが庭に若葉茂りて初夏のよそほひ自粛の日日をなごます　5月15日　K

睡蓮に白がくわわって五領沼去年の夏にちかづくごとし　5月20日　O

手裏剣のやうな形のヤマボウシ真白に咲きて五月尽なり　5月29日　N

あぢさゐの白き花びら凛として六月の光のなかに在り　6月3日　K

六月の朝は鳥たちもどりみち同じ鳥とはかぎらぬながら　6月5日　O

桜桃（あうたう）の季節なれども静かなり他人（ひと）の手になる叔母の畑は　6月12日　N

スーパーに「山形さくらんぼ」買ひ求め義兄（あに）と姪との父の日ディナー　6月20日　K

ならび歩きを半周がほどその間はワクチン接種のことのみにすぐ　6月23日　O

ワクチンは世界を救ふか打つ者と打たざる者は永遠に混じらず　6月28日　N

ワクチンの接種終れど習慣は自粛のままに安心安全　7月3日　K

傘をしてまでして歩く人少なまして年寄り出ている鴉　7月8日　O

傘さして応援してはならぬとふサッカー場に雨合羽あまた　7月15日　N

梅雨明けて晴雨兼用傘出せどショッピングカートに使ふことなし　7月28日　K

沼からでなく沼に下ってきたところ睡蓮の、鯉の沼ひとつの沼に　7月31日　O

最上川の洪水のためあるといふ大久保遊水地は役割果たしき　8月7日　N

梅雨明けのあと感染に観戦とせはしきままにはや秋たちぬ　8月20日　K

くしゃみしているそれは人でなく犬暑さのなかに秋風の吹く　8月25日　O

秋風の急に身に沁みサッカーの日本代表オマーンに敗れつ　9月2日　N

水道の水の温みに秋を知り「猛暑」の言ひ訳もはや効なし　9月3日　K

雨の日も雨のつづきも気疎くてとしよりしことのそれも一つか　9月7日　O

雨の日の次の青空うれしくて秋の光の中を歩きぬ　9月10日　N

東窓開けて陽光久しかり大日如来に両手（もろて）を合はす　9月15日　K

対詠　ごきげんいかが？

O　小野澤繁雄
N　布宮　慈子
K　河村　郁子

あさつては雪降るらしと伝ふるに庭木ゆるがず乾燥に耐ゆ　1月22日　K

晴れ間でも雨のち晴れはキラキラし洗われ出でてなお冬のそら　1月25日　O

サラサラとまたモサモサと降つてくる雪に見てゐる無常といふこと　1月31日　N

中空に寝待ちの月のくわうくわうと睦月尽にて無事を礼せり　2月1日　K

スーパーを出てみる空は夕焼けて日々みるそらをこのそらとする　2月4日　O

雪の日も晴れ間みつけてスコップを持ち出してゆく日課のやうに　2月10日　N

東隣の窓よりの反射光　仏間いつぱい夕陽が染める　2月17日　K

白梅を先にみた日と後にみた日と花をみて紅白を云う　2月18日　O

瀧山（りゅうざん）は蔵王のいちばん近い山夕陽当たれば白く輝く　2月25日　N

親族（うから）らと三回忌法要の境内を紅梅白梅愛でつつ歩む　2月28日　K

一（ひと）歩きして町内の梅そのほかにみた花あれど梅がのこれる　3月3日　O

刻まれてゆく三一一それぞれの記憶を越えて春霞立つ　3月11日　N

紅梅のさいごの一花散りしあと白沈丁花のい群れ咲きゐる　3月14日　K

アパートの庭にもみえて白蓮の重々とみゆ幼木なれば　3月17日　O

城跡の園の紅梅咲き始むここ山形は春の彼岸に　3月22日　N

さ庭にも紅梅のあと沈丁花、海棠咲きつぎ励ましくるる　3月31日　K

新明小あるは御茶山町となり町内（まち）が神明町なるわからぬ長く　4月4日　O

白鷹町にコブシの並木あるといふ花弁の数の合併なりき　4月11日　N

わが町の名は高野台　江戸時代に谷原（やはら）在家と呼ばれしところ　4月14日　K

名としては6・4号橋とある跨線橋名というよりは識別子なれ　4月17日　O

三十年ともに「展景」作りきし池田桂一伊達市に逝きぬ　4月22日　N

おだやかなお声が和室にしつくりと心に残るかの日の池田さん　4月22日　K

池田さんの若き日しりぬ教室に隣り合いつつそれも少しずつ　4月27日　O

対詠　ごきげんいかが？

Ｏ　小野澤繁雄
Ｎ　布宮　慈子
Ｋ　河村　郁子

もどりこし子とのくらしはまた家族ただ待つことの時間時間は　10月7日　O

老母に会ひに来られぬ関東の友達のこゑ箒木あかし　10月14日　N

病院の面会自粛に九十路（ここのそぢ）執念解きて携帯愛用　10月18日　K

日常に「新しい」が付くスマートフォンにマスク姿がただ付加されて　10月21日　O

編集の師匠でありし村井氏の偲ぶ会にも行けない今は　追悼・村井弘明さん　10月26日　N

自粛とて友とスマホの掛け放題互（かたみ）に「お喋りリハビリ」として　11月9日　K

挨拶を返さぬ決まりそのように歩きのわれに自転車の人　11月11日　O

「あいさつ」と「挨拶」の文字あひだには読めるが書けぬとふ惑ひのありて　11月19日　N

人形にご挨拶するゼロ歳児動画に向きて「生涯大切」　11月21日　K

歩道橋段差小さを上り下るおさなき頃は歩道橋なく　11月24日　O

歩道には落ち葉多（さは）にてＮＤ（ん）ソフトスタジアム（だ　す　た）と呼ばるるサッカー場に集ひぬ　11月25日　N

散歩みちにボール蹴る子ら見ずなりて和製マラドーナ出づる由（よし）もがな　12月6日　K

長い坂下りつつある秋の日は大人になりし子を思いつつ　12月8日　O

きのふより舞台が転換したやうに世界はいきなり白に変はつた　12月15日　N

白銀の世界に心躍りしは二十代　今、転倒禁忌　12月19日　K

この角でポンプの音をきいていしその養魚場一つ昔か　12月22日　O

釣堀の武蔵境にありしこと今思ひ出づ釣りしことなし　12月27日　N

２０２１年

池の辺（へ）に釣り竿の先見つめゐし翁の横顔今は幻相　1月8日　K

一日分の会話というをしておりぬ池をきれいにしている人と　1月12日　O

雪被る蔵王を眺むる夕べかな大寒の一日（ひとひ）はや過ぎむとす　1月20日　N